

その他の研究事業

その他にも、財団法人電力中央研究所との共同研究として「地質・地下水環境特性評価に関する研究」を行っています。コントロールボーリング掘削技術の適用性について、

町内各所で掘削をしながら研究しています。また、原子力環境整備促進・資金管理センターとは、物理探査にかかると共同研究も実施されています。

幌延地圏環境研究所

町では、幌延深地層研究センターの開設に伴い、その研究施設を活用する試験研究を支援する「深地層研究施設整備促進補助事業」を使った、町が主体的に運営・実施する研究構想を策定しました。この研究構想により、研究所運営委員会の長を幌延町長とし、財団法人北海道科学技術総合振興センターが実施主体を担うという運営体制のもと、幌延地圏環境研究所が平成15年に発足しました。

は、深地層研究センターの地下施設を利用するなどして、幌延地域の地層に関わる情報を岩石力学、微生物学、地下水理学などの立場から多角的にとらえ、地球の環境保全に役立てることを目指しています。

基盤研究は3つで、1つ目は「堆積岩の研究」です。幌延町の地層を構成する主な岩石は、新第三紀に体積した珪藻質の泥岩で、限られた地域にしか存在しないものです。堆積岩の特性、泥質岩・石



幌延地圏環境研究所

炭の超臨界CO₂試験などを行っています。2つ目は「地下の微生物」について研究し、暮らしや産業に利用できるものを見つけ出し、その利用方法について研究を行っています。

3つ目は「地下水の研究」で、地下水やガスの

「研究」で、地下水やガスの地中移行に関する研究や、サロベツ湿原の保護と利用の両立に資するための基礎情報として、幌延町と周辺の水理地質構造を把握するための研究を行っています。

その他に、「プロジェクト研究」として、比較的短時間で工学的な成果をあげ、幌延町の地域活性化に役立つ研究をしています。これまでに、既存井戸から自噴する地下水を利用した、牛舎などの冷房システムの実証試験などを行い、現在は幌延町内の地下微生物を活用した低温熟成チーズの研究開発を進めています。



幌延町は、北海道・日本原子力研究開発機構・幌延町が締結した「深地層の研究に関する協定（三者協定）」を遵守しながら、深地層という未知の科学の領域を探索する研究開発に協力していきます。そして、これらの研究が、新たな地域活性化、新産業づくりの芽だしとなることを期待しています。